

高等学校 令和5年度（1学年用）

教科 数学 科目 数学 I

教科 数学 科目 数学 I 単位数: 3 単位

対象学年組: 第 1 学年 1 組～ 3 組 (1組: 森島・山本) (2組: 森島・山本) (3組: 川上・森島)

教科担当者: 「数学 I」(数研出版)

教科 数学 の目標:

【知識及び技能】事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度を養う。

科目 数学 I の目標:

	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】	知		思		態		配当 時数	
				知	思	態	知	思	態		
	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	事象を的確に表現してその特徴を表す、式、グラフを相互に関連付けて考察する力や適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度を養う。								
1 学 期	A 単元 2次関数の決定、2次関数のグラフと方程式、2次不等式 【知識及び技能】 2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論理に基づき判断しようとする。	・指導事項 2次関数の決定 2次関数のグラフと方程式の関係 2数の連立不等式の解法 解の存在範囲 絶対値を含む関数のグラフ ・教材 授業プリント 問題集	【知識及び技能】 2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論理に基づき判断しようとする。								6
	B 単元 三角比 【知識及び技能】 座標を用いた三角比の定義を理解し、鋭角や鈍角の三角比を求めたり、相互関係の式が利用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、三角比を活用して問題を解決する力を養う。	・指導事項 鋭角や鈍角の三角比 三角比の拡張 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 鋭角や鈍角の三角比を求めることができる。相互関係を利用し、1つの値から残りの値が求められる。 【思考・判断・表現】 具体的な事象を三角比の問題として捉えることができる。鋭角の三角比を鈍角に拡張して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などに三角比を利用しようとする。								6
	定期考査										1
	C 単元 三角比の三角形への応用 【知識及び技能】 正弦定理、余弦定理、面積公式を利用して、三角形の辺や角、面積を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式を導く力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を養う。	・指導事項 正弦定理・余弦定理 三角形の面積空間図形への応用 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。三角比を用いて、三角形の面積や正四面体などの体積を求めることができる。 【思考・判断・表現】 正弦定理や余弦定理を導くことができる。空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 正弦定理や余弦定理が図形の計量に活用できることに着目し、これらを用いて三角形について解こうとする。								10
	D 単元 三角関数 【知識及び技能】 弧度法で表された角の三角関数の値を定義によって求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 問題に三角関数を利用し解決しようとする意欲がある。	・指導事項 三角関数の性質とグラフ ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 弧度法で表された角の三角関数の値を定義によって求めることができる。三角関数の性質とグラフの特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 三角関数の定義を一般化して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 新しい角度の取り方である弧度法に興味をもち、角度の換算に取り組もうとする。								10
	定期考査										1
E 単元 加法定理 【知識及び技能】 加法定理や2倍角・半角の公式を利用して三角関数の値を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 加法定理を事象の考察に活用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な問題に対して、加法定理、2倍角・半角の公式を利用して解決しようとする。	・指導事項 加法定理 2倍角・半角の公式 三角関数の合成 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 様々な問題に対して加法定理を利用することができる。 【思考・判断・表現】 加法定理や2倍角・半角の公式、合成公式を利用して解法を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 加法定理や2倍角・半角の公式に関心を示し、その公式を用いて三角関数の値を求めたり、三角関数の解を求めたりしようとする。								8	
F 単元 図形と方程式 【知識及び技能】 座標を用いて、直線や円の性質や関係を求めることができるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 座標を用いて、直線や円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 直線や円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。	・指導事項 平面上の直線の性質 円の方程式 円と直線、2つの円の位置関係 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 与えられた条件を満たす直線や円の方程式を求め、その関係を理解している。 【思考・判断・表現】 座標を用いて、直線や円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 平面上の図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のおよさを知ろうとする。								12	
定期考査										1	
2 学 期	G 単元 軌跡と領域 【知識及び技能】 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。不等式や連立不等式の表す領域を図示することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 点や線が条件から得られた方程式がどのような図形を表しているか、不等式がどのような領域を表しているかを考察しようとする。	・指導事項 軌跡と方程式 不等式の表す領域 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。不等式や連立不等式の表す領域を図示することができる。 【思考・判断・表現】 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 点や線が条件から得られた方程式がどのような図形を表しているか、不等式がどのような領域を表しているかを考察しようとする。								6
	H 単元 指数関数と対数関数 【知識及び技能】 指数法則を用いた計算や対数の計算ができ、指数関数や対数関数のグラフの概形、特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 指数関数、対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 指数と対数の相互関係に興味・関心をもち、やや複雑な問題にも積極的に取り組もうとする。	・指導事項 指数関数のグラフとその性質 対数関数のグラフとその性質 常用対数 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 指数法則を用いた計算や対数の計算ができ、指数関数や対数関数のグラフの概形、特徴を理解する。 【思考・判断・表現】 指数関数、対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 指数と対数の相互関係に興味・関心をもち、やや複雑な問題にも積極的に取り組もうとする。								16
定期考査										1	
3 学 期	I 単元 微分法 【知識及び技能】 微分係数や導関数の定義を理解し、導関数を利用して関数の増減・極値を調べ、グラフを描くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 関数のグラフを用いて、方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。	・指導事項 微分係数と導関数 関数の値の変化 関数のグラフと方程式・不等式 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 微分係数や導関数の定義を理解し、導関数を利用して関数の増減・極値を調べ、グラフを描くことができる。 【思考・判断・表現】 微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 関数のグラフを用いて、方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。								13
	J 単元 積分法 【知識及び技能】 不定積分や定積分の定義や性質を理解し、それらを利用する計算ができるようになる。直線や曲線で囲まれた部分の面積を定積分で表して求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 面積が関数の1つの不定積分であることに興味・関心をもち、面積を定積分を用いて求めようとする。	・指導事項 不定積分 定積分 面積 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 不定積分や定積分の定義や性質を理解し、それらを利用する計算ができるようになる。直線や曲線で囲まれた部分の面積を定積分で表して求めることができる。 【思考・判断・表現】 積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 面積が関数の1つの不定積分であることに興味・関心をもち、面積を定積分を用いて求めようとする。								13
	定期考査										1
										1 合計 105	

高等学校 令和5年度（2学年用）

教科 数学 科目 数学B

教科： 数学 科目： 数学B 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1組～ 3組

教科担当者： (1組：木俣) (2組：木俣) (3組：木俣)

使用教科書： 「数学B」(数研出版)

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力や解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度を養う。

科目 数学B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。事象を数式化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身につける。	離散的な変化の規則性に着目し、日常の事象や社会の事象を数式化したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身につける。	数学の良さを認識し、数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断できる力を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A 単元 数列とその和 【知識及び技能】 数列の定義、表記について理解し、等差数列・等比数列の一般項・和の公式を適切に利用することができるようになる。和の記号Σの意味を理解し、数列の和が求められる。 【思考力、判断力、表現力等】 等差数列・等比数列の項を並べて隣接する項の関係が考察できるようになる。数列の和をΣで表して計算を簡単に行うことができるようになる。和の求め方の工夫をして数列の和を求めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数の並びに興味・関心をもち、その規則性を発見しようとする意欲をもち、問題解決に利用しようとする。	・指導事項 等差数列とその和 等比数列とその和 和の記号Σ 階差数列 いろいろな数列の和 ・教材 教科書 補助プリント 問題集	【知識・技能】 数列の定義、表記について理解し、等差数列・等比数列の一般項・和の公式を適切に利用することができる。和の記号Σの意味を理解し、数列の和が求められる。 【思考・判断・表現】 等差数列・等比数列の項を並べて隣接する項の関係が考察できる。数列の和をΣで表して計算を簡単に行うことができる。和の求め方の工夫をして数列の和を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数の並びに興味・関心をもち、その規則性を発見しようとする意欲をもち、問題解決に利用しようとする。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	B 単元 数学的帰納法 【知識及び技能】 漸化式の意味を理解し、初項と漸化式から数列の一般項が求められるようになる。数学的帰納法を理解し、これを利用して等式などの証明ができるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解する。自然数nに関する命題の証明には数学的帰納法が有効であることを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 いろいろな問題に漸化式が利用できることを理解し、積極的に活用しようとする。数学的帰納法を利用していろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	・指導事項 漸化式と数列 数学的帰納法 ・教材 教科書 補助プリント 問題集	【知識・技能】 漸化式の意味を理解し、初項と漸化式から数列の一般項が求められる。数学的帰納法を理解し、これを利用して等式などの証明ができる。 【思考・判断・表現】 初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解する。自然数nに関する命題の証明には数学的帰納法が有効であることを理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 いろいろな問題に漸化式が利用できることを理解し、積極的に活用しようとする。数学的帰納法を利用していろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	○	○	○	16
定期考査			○	○		1	
2 学期	C 単元 確率分布 【知識及び技能】 確率変数の期待値、分散、標準偏差が求められるようになる。連続的な確率変数について理解し、その期待値と分散が求められるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることの良さに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。	・指導事項 確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散 二項分布・正規分布 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 確率変数の期待値、分散、標準偏差が求められる。連続的な確率変数について理解し、その期待値と分散が求められる。 【思考・判断・表現】 確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることの良さに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。	○	○	○	19
	定期考査			○	○		1
	D 単元 統計的な推測 【知識及び技能】 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差が求められるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。推定や信頼区間の考え方がわかる。 【学びに向かう力、人間性等】 母集団や標本の特徴を理解しようとする。母平均や母比率の推定に関心を示す。	・指導事項 標本平均とその分布 推定 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差が求められる。 【思考・判断・表現】 母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。推定や信頼区間の考え方がわかる。 【主体的に学習に取り組む態度】 母集団や標本の特徴を理解しようとする。母平均や母比率の推定に関心を示す。	○	○	○	21
定期考査			○	○		1	
				○	○		合計 78

高等学校 令和5年度（2学年用）

教科 数学 科目 数学C

教科：数学 科目：数学C 単位数：1 単位

対象学年組：第 2 学年 1組～ 3組

教科担当者：（1組：木俣）（2組：木俣）（3組：木俣）

使用教科書：「数学C」（数研出版）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力や解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。

科目 数学C の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。数学的な表現の工夫について認識を深める。	図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につける。	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	E 単元 複素数平面 【知識及び技能】 複素数平面の定義を理解し、複素数の演算の図形的意味を理解する。極形式を利用して複素数の積・商を求めることができるようになる。ド・モアブルの定理の有用性を理解し、活用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 極形式を利用することで複素数の乗法・除法の図形的意味が明らかになることを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 複素数平面を考えることにより、複素数の図形的側面が明らかになることを理解しようとする。	・指導事項 複素数平面 極形式 ド・モアブルの定理 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 複素数平面の定義を理解し、複素数の演算の図形的意味を理解する。極形式を利用して複素数の積・商を求めることができる。ド・モアブルの定理の有用性を理解し、活用できる。 【思考・判断・表現】 極形式を利用することで複素数の乗法・除法の図形的意味が明らかになることを理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 複素数平面を考えることにより、複素数の図形的側面が明らかになることを理解しようとする。	○	○	○	13
	F 単元 式と曲線 【知識及び技能】 放物線・楕円・双曲線の定義を理解し、それぞれの方程式を求めることができるようになる。2次曲線と直線の位置関係を理解し、接線の方程式を求めることができるようになる。2次曲線や円を、媒介変数を用いて表すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 2次曲線と直線の位置関係を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。X、yについての方程式では表しにくい曲線を媒介変数表示を用いて考察することができるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 2次曲線を解析幾何学的方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。2次曲線の標準形と媒介変数表示の変換に興味・関心をもち、進んで考察しようとする。	・指導事項 2次曲線 2次曲線と直線 媒介変数表示と極座標 ・教材 授業プリント 問題集	【知識・技能】 放物線・楕円・双曲線の定義を理解し、それぞれの方程式を求めることができる。2次曲線と直線の位置関係を理解し、接線の方程式を求めることができる。2次曲線や円を、媒介変数を用いて表すことができる。 【思考・判断・表現】 2次曲線と直線の位置関係を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。X、yについての方程式では表しにくい曲線を媒介変数表示を用いて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 2次曲線を解析幾何学的方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。2次曲線の標準形と媒介変数表示の変換に興味・関心をもち、進んで考察しようとする。	○	○	○	13
	定期考査				○	○	

令和 5 年度 年間授業計画

東京都立大泉高等学校 全日制課程

教科・科目 講座名	数学・数学共通テスト演習Ⅱ	単位数	2 単位	選択
対象学年・組	3年選択者 2講座			
担当教員	武田脩平 ・ 中村武義			
教科書等	改訂版 大学入学共通テスト対策 ニュースタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ+A・B 受験編			

学習の目標	共通テスト・センター試験を含めた過去問を解くことにより実践的に学力を身につける。多くの問題を解くことにより、いろいろな問題の解き方、問題を解くスピードを身につける。
-------	--

学期	単元(学習内容)	時間	学習上の留意点
1学期	① 数と式 ② 2次関数 ③ 三角比 ④ データの分析 ⑤ 場合の数と確率 ⑥ 図形の性質 ⑦ 整数	24	数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bを中心に演習問題を行うことにより、入試に対応できるように演習を行う。多角的に問題をとらえ本題の本質をとらえられるようにする。解説をただ行うのではなく、通常の解説では余り示されない考え方・方法についても示していく。
2学期	① 複素数・式と証明 ② 三角関数 ③ 指数関数・対数関数 ④ 微分法 ⑤ 積分法 ⑥ ベクトル ⑦ 数列	28	難易度の高い問題を中心に演習問題を行うことにより、入試に対応できるように演習を行う。総合的な力を身につけるためより実践的な問題を精選し、理解させ自信が持てるよう指導する。共通テスト対策として過去問、予想問題の演習を行う。
3学期	① 個別対応 ② ③ ④ ⑤		共通テスト・2次私大記述問題に向けて、個別の対応を行う。

評価の観点・方法	中間・期末考査の結果を主とする。また、授業に対する取り組みや小テスト等の平常点を加味して総合的に判断する。
----------	---

令和 5 年度 年間授業計画

東京都立大泉高等学校 全日制課程

教科・科目 講座名	数学・数学Ⅲ	単位数	6 単位	選択
対象学年・組	3年選択者 2講座			
担当教員	時松 秀行・清水 徳子			
教科書等	数研出版 改訂版「数学Ⅲ」 4STEP数学Ⅲ オリジナルスタンダード数学演習Ⅲ			

学習の目標	教科書の例題レベルから入試問題のレベルまで対応できるように問題を精選し解説していく。
-------	--

学期	単元(学習内容)	時間	学習上の留意点
1学期	① 関数	72	分数関数や無理関数の特徴を理解する。様々な逆関数や合成関数についても理解し問題解決に役立てる。また、極限に対する法則を示し、十分定着できるようにする。さらに、微分法の知識を整関数以外の関数にも応用して行けるようにする。解説中心でなく、生徒自らが学習に取り組み、生徒間相互の学力向上につながるように工夫する。 後半では微分法の応用を学び、平面上の曲線など幅広い知識を身につけさせる。また、積分法に関する問題を多角的にとらえ、問題の本質をとらえられるようにする。解説中心ではなく、生徒が自ら学習に取り組み、学力向上につながるようにする。様々な解法で解答を示したり、演習させることにより総合的な力を身につけさせる。
	② 数列の極限		
	③ 関数の極限		
	④ 微分法		
	⑤ 微分法の応用		
	⑥ 積分法		
	⑦ 積分法の応用		
2学期	⑧ 総合演習	84	微分法・積分法を中心に、演習問題を行うことにより、大学入学試験に対応できるようにする。解説をただ行うのではなく、様々な解法で解答を示したり、演習させることにより総合的な力を身につけさせる。
3学期	個別対応		共通テスト・私立大学・国公立大学2次試験の対する個別対応

評価の観点・方法	中間・期末考査の結果を主とし、その他ノート点等の平常点を加味して総合的に判断する。
----------	---

令和 5 年度 年間授業計画

東京都立大泉高等学校 全日制課程

教科・科目 講座名	数学・数学記述演習	単位数	2 単位	選択
対象学年・組	3年選択者 4講座			
担当教員	時松 秀行 ・ 木俣 隆史			
教科書等	四訂版 クリアー数学演習 I・II・A・B 受験編			

学習の目標	入試問題の過去問を解くことにより実践的に学力を身につける。多くの問題を解くことにより、いろいろな問題の解き方、問題を解くスピードを身につける。
-------	---

学期	単元(学習内容)	時間	学習上の留意点
1学期	① 数と式 ② 関数と方程式・不等式 ③ 式と証明 ④ 図形と式 ⑤ 整数の性質 ⑥ 場合の数, 確率	24	数学 I・A・II・Bを中心に演習問題を行うことにより、入試に対応できるように演習を行う。多角的に問題をとらえ本題の本質をとらえられるようにする。解説をただ行うのではなく、通常解説では余り示されない考え方・方法についても示していく。
2学期	① 三角比・三角関数 ② 指数関数・対数関数 ③ 微分法 ④ 積分法 ⑤ 図形の性質 ⑥ ベクトル ⑦ 数列 ⑧ データの分析	28	難易度の高い問題を中心に演習問題を行うことにより、入試に対応できるように演習を行う。総合的な力を身につけるためより実践的な問題を精選し、理解させ自信が持てるよう指導する。共通テスト対策として過去問、予想問題の演習を行う。
3学期	① 個別対応 ② ③ ④ ⑤		共通テスト・2次私大記述問題に向けて、個別の対応を行う。

評価の観点・方法	中間・期末考査の結果を主とする。また、授業に対する取り組みや問題集ノート等の平常点を加味して総合的に判断する。
----------	---